

神仏分離にみる薬師神社の建築の変容に関する一考察

-山形県内の薬師神社中心に-

A Study on the Architectural Transformation of Yakushi Shrines in the Context of the Separation of Shinto and Buddhism

- Focusing on Yakushi Shrines in Yamagata Prefecture -

○佐久間一樹¹, 小島陽子²

*Kazuki Sakuma¹, Yoko Kojima²

In the Tohoku region, a distinctive form of Shinto-Buddhist syncretism emerged, blending folk beliefs such as mountain worship with Buddhism. This syncretism was separated during the Meiji Restoration's Haibutsu kishaku movement. Among these, the main hall of Yakushi Shrine exemplifies a Buddhist structure that changed function to become a shrine hall. Many Yakushi Shrines are known as facilities where Yakushi halls changed function to become shrines due to this separation. This paper reports on Yakushi Shrines within Yamagata Prefecture to investigate architectural changes during the separation of Shinto and Buddhism.

1. 背景・目的

東北地方では山岳信仰などの民間信仰と仏教が融合した特徴ある神仏習合が見られる。既報^[1]では東北地方の神仏習合が見られた社寺を対象に神仏分離前後の社寺境内と仏教的建造物の建築的变化について扱った。その中で、仏教的建造物が社殿へと機能を変更した事例に薬師神社本殿がある。薬師神社の多くは神仏分離によって薬師堂が神社へ機能を変更した建築として知られる。本稿では東北地方の薬師神社に焦点を当て、神仏分離による建築の変化について報告を行う。

神仏分離に伴う薬師神社に関する研究について、西尾正仁^[2]が民間信仰や風俗との関係に焦点を当て、行っている。しかし、建築の変化については限定的な記述に留まる。また、東北地方は薬師信仰が盛んな地域の一つとされ、西尾正仁の報告によれば東北地方における薬師神社の数は約100社とされる^[3]。

したがって、東北地方の薬師神社の神仏分離時の変化を明らかにする事は東北地方の建築文化を考察する上で重要な要素の一つであろう。

2. 東北地方の薬師神社について

東北地方への薬師信仰の流入は熊野信仰の広がりに伴ったものである。薬師信仰が流入した当初、薬師様は山岳信仰が盛んな山の山頂で祀られ、修験者の里への定住に併せて麓に祀られるようになっていく^[4]。

東北地方の薬師神社の位置を図1に示す。薬師神社は日本海側に多く、特に山岳信仰が盛んであった山形県内の分布数が突出している。

このように、東北地方の薬師信仰は山岳信仰との深い関りを持っている。特に山岳信仰の1つで、東北地方南部を中心に信仰される「ハヤマ信仰」は本地仏とし

て薬師如来を祀り、その関係性に着目した研究^[5]がなされているなど、山形県周辺では薬師様が厚く信仰されていたと推測する。

以上より、本稿では対象社寺を薬師神社が集中する山形県内で所在の確認できた40社の内、本殿の建立時期が神仏分離前と判明した2社と屋根形状から神仏分離以前の建立と推測できる2社の計4社(図1において赤丸で示す)を対象に文献資料や写真から建築の構成についてまとめる。

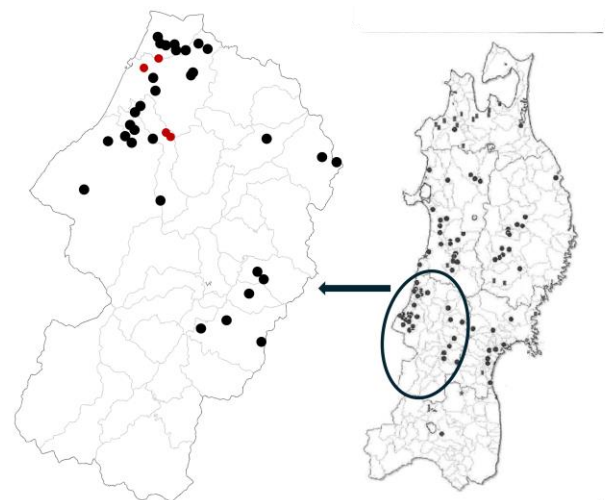


図1 薬師神社分布図

(左) 山形県内^[6] (右) 東北地方全域^[7]

3. 東北地方の薬師神社

3.1 峰薬師神社

峰薬師神社(図3)は鶴岡市羽黒町に所在する。社殿は方形平面に宝形屋根を持ち、仏教的要素を強く見られる。神仏分離時に仏教的建造物が屋根形状を変更せずに社殿へ転用したと推測する。

1 : 日大理工・院(前)・建築 2 : 日大理工・教員・建築

3. 2 赤坂薬師神社

赤坂薬師神社(図4)は鶴岡市羽黒町に所在する。この神社も社殿は宝形屋根を有し、仏教的建造物が屋根形状を変更せずに社殿へと転用したと推測する。また、本殿の建立年代について、聞き取り調査によれば、羽黒山正善院黄金堂の修理を行った時期と同一だとされる。したがって、本殿の建立時期は黄金堂の大修理が行われた1594年ごろと推測する。



図3 峰薬師神社^[8]



図4 赤坂薬師神社^[9]

3. 3 薬師神社(桶屋町)

桶屋町の薬師神社(図5)は酒田市市街地の本間家住宅近辺に所在する。社殿の前面にある拝殿は昭和3年に建立されている。本殿については江戸時代に建立されたとされ、土蔵造の瓦葺となっている^[10]。しかしながら、本殿の形状確認する事が出来ていない。

3. 4 薬師神社(中星川)

中星川の薬師神社(図6)は酒田市北東部に所在する。本殿は1859年に建立されたとされ、木造で銅葺の流造を持っている。また、1982年に屋根の改修が行われている^[11]。しかしながら、本殿の形状は確認する事が出来ていない。



図5 薬師神社(桶屋町)^[12]



図6 薬師神社(中星川)^[13]

4. 「明治維新神仏分離史料」掲載の薬師神社

山形県内の薬師神社について包括的にまとめた資料に「明治維新神仏分離史料」(以下「分離史料」^[14])がある。分離史料は大正時代ごろにまとめられ、全国各地の社寺における神仏分離の状況を収録している。山形県内の薬師神社に関する記述は神仏分離が行われた薬師神社の住所の記載が主であるが、建築的要素の記述と

して「矢張り」がみられる。分離史料によれば、神仏分離が行われた明治期の山形県内の薬師神社では参詣者が矢張りを薬師如来みなして祈願している事例がある事を指摘している。このことから、当該地域において神仏分離以前の仏教的建造物を転用する上で、建築に付加された装飾を薬師如来とみなし、神仏分離後も信仰のシンボルとされていた事が分かる。しかしながら、現地調査を行えていないため、現在も矢張りが残され、矢張りを薬師如来とみなして信仰する風習が残っているかは不明であり、今後の課題である。

5. まとめ

本稿では東北地方の4つの薬師神社における建築構成について整理した。また、「明治維新神仏分離史料」上の社殿になった以降も「矢張り」を薬師如来にみたてて、神仏習合した信仰が継続していた記録について指摘した。これにより、宝形屋根や矢張りのように、直接的には信仰とは関わりのない建築的要素が仏教的なシンボル性を持ち、神仏分離後の信仰に影響を与えている事が分かった。一方で、本報告は外観から読み取れる情報に限定されており、建築内部の様子について触れることができなかった。以上の事から、今後は文献資料の収集と整理を続けると同時に、実測や聞き取り調査等の現地調査を行いたい。

参考文献・注釈

- [1]佐久間一樹 小島陽子「神仏習合の建築空間と神仏分離に伴うその変容に関する研究-東北地方における社寺境内の配置を中心として」令和6年度日本大学理工学部卒業論文集,発行年.2025年3月
- [2] 西尾正仁「近世東北日本における神仏習合—薬師神社を中心として—」御影史学論集第42号 pp23,40 発行年.2017年6月
- [3][2]のpp24より引用
- [4][2]のpp32より引用
- [5]岩崎敏夫「東北民間信仰の研究.上」,名著出版, pp28-37, 発行年.2019年7月
- [6][2]のpp26掲載の地図と google map の情報をもとに筆者が作成
- [7][2]のpp26掲載の地図を加筆して掲載
- [8] やまがたへの旅「峰薬師神社」より引用,閲覧日 2025.9.29
https://yamagatakanko.com/attractions/detail_10538.html
- [9]やまがたへの旅「赤坂薬師神社」より引用,閲覧日 2025.9.29
https://yamagatakanko.com/attractions/detail_10537.html
- [10]「神社巡拝便利帳(天皇陛下御在位60年記念 支部神青会創立15周年記念)」神社庁酒田飽海支部神道青年会,発行年 1986年11月
- [11][10]のpp77より引用
- [12][10]のpp80より引用
- [13][11]と同上
- [14] 辻善之助,村上专精,鷺尾順敬「新編・明治維新神仏分離史料.第2巻(東北編・関東編1)」名著出版,発行年 2001年8月
- [15] 西尾正仁「薬師信仰:護国の仏から温泉の仏へ」御影史学研究會民俗学叢書13 発行年 2000年10月 P315-339